

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山盛 淳子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。 豊かなことばの感性と表現力を身につける。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できるようになる。 保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。 言葉を豊かにする教材を選択できるようになる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、「言葉とは？」講義の概要 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ本科目に関する概要を理解する。</p> <p>第2回 言葉をめぐるワークショップ 言葉の機能について学ぶ。</p> <p>第3回 保育内容としての「言葉」の歴史 「関連法令・子どもの権利条約」などに関連した保育内容としての「言葉」の歴史を学ぶ。</p> <p>第4回 保育内容としての「言葉」の歴史 「要領・指針・認定子ども園」などに関連した保育内容としての「言葉」の歴史を学ぶ。</p> <p>第5回 乳幼児の発達と言葉① 言葉を話す前の「言葉の育つ道すじ」について学ぶ。</p> <p>第6回 乳幼児の発達と言葉② 言葉を話せるようになってからの「言葉の育つ道すじ」について学ぶ。</p> <p>第7回 乳幼児の発達と言葉③ 言葉の育つ道すじ(3歳児の言葉)について学ぶ。</p> <p>第8回 乳幼児の発達と言葉④ 言葉の育つ道すじ(4歳児の言葉)について学ぶ。</p> <p>第9回 乳幼児の発達と言葉⑤ 言葉の育つ道すじ(5歳児の言葉)について学ぶ。</p> <p>第10回 言葉を育てる児童文化と地域文化① 地域の昔話を学ぶ(学生発表：前半・反省)</p> <p>第11回 言葉を育てる児童文化と地域文化② 地域の昔話を学ぶ(学生発表：後半・まとめ)</p> <p>第12回 言葉を育てるための保育者の関わり・役割 言葉に障害がある子へのかかわりについて学ぶ。</p> <p>第13回 指導計画と「ことば」 領域「ことば」を意識した指導計画について学ぶ。</p> <p>第14回 家庭との連携と「ことば」 クラスだよりについて学ぶ。</p> <p>第15回 ことばをめぐる新たな課題 メディアの発達、英語教育等とことばの発達に与える影響について学ぶ。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい(互いの関係性)」等を軸に乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ。
予習	事前に教科書を読み、授業内容をイメージしておく(特に乳幼児の発達段階)
復習	課題、まとめを読み、内容をより理解し、次の授業と関連づけができるよう努める
テキスト	『実践につなぐ 言葉と保育』近藤幹生 他
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>期末試験：30% 課題・実技・演習への取り組み：30% 授業態度：15% 受講者の発表：10% 演習：15%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身が言葉を豊かに話せる様に努める</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>(仮) 毎週**曜日 **限目 山盛研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>課題やプリントは、評価後に返却します。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋 浩子			

授業のテーマ及び到達目標	『私達の暮しと保育』を考え、社会人として、保育者としてのマナーを身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学ぶ。知識理解として幼児期の基本的な生活習慣について理解する。乳幼児期の発達と生活技能について関心を持つ。また、自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。		
授業計画	第1回	講義概要説明、幼児の基本的な生活習慣について考える 近年、家庭教育力や子育て機能等が低下していることが指摘されている。沖縄県の現状について問題提起し、乳幼児期の子どもの生活、基本的な生活習慣の重要性について理解し、自らの生活を振り返り自信の資質につなげてもらう。	
	第2回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」①食事の習慣 食生活における食情報の氾濫や安全の問題等を通して、幼児期には食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味・関心やよく噛んで何でも食べられる食生活の基本を身につけさせるポイントについて説明する。	
	第3回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」②睡眠の習慣 近年の子ども達の睡眠状況について問題提起し、睡眠の重要性や発達との関わりについて事例等を通して説明する。	
	第4回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」③排泄の習慣 子どもが安心して排泄できる、心地よい排泄につながる環境について、文化財等を活用し説明する。	
	第5回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」④着脱衣の習慣 衣服の役割や重要性、幼児の発達に即した衣服の着脱の仕方等を具体的に説明する。	
	第6回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」⑤清潔の習慣 健康に暮らすために欠くことのできない習慣であり、幼児期のうちから身に付けなければならない大切なことであることを事例等を通して具体的に説明する。	
	第7回	乳幼児期の子どもの生活 「社会的生活習慣」 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園の関連領域を通して説明し、保育現場において身につけさせるための保育者のかかわりについてグループ協議を行わせる。	
	第8回	常識マナー・保育現場での心構え 子どもや保護者、先輩保育者等と接する時の基本的な姿勢、また社会人としてのマナー等について保育者として身につけておくべき心得やマナーを具体的に説明する。	
	第9回	はさみや箸の持ち方等 近年、簡単で便利な生活、直接手を使う体験や見て学ぶ機会が減少していることについて問題提起し、正しいもち方、使い方を説明し実践してもらう。	
	第10回	課題発表 保育実習の中で基本的な生活習慣について具体的な場面に視点をもち観察したことをまとめて発表してもらう。	
	第11回	園だより・学級だよりの作成 園と家庭を結ぶ大切な架け橋の役目を果たし、教育効果を深めるものであることを説明し、現在の社会状況は情報過多であることから、読んでもらえる、喜ばれる園だよりを工夫し作成してもらう。	
	第12回	折り紙の魅力について 折り紙の歴史や保育現場での活用等を紹介し、折り紙を折ることで何が培われるか等をグループ協議を行わせる。	
	第13回	廃品を利用した製作① 限りある資源を大切に使い、廃棄物を減らすことで自然環境への負担を押さえることの大切さを説明し、チラシ紙の再利用をしてもらう。	
	第14回	廃品を利用した製作② 再利用することで形が変わることの意外性に気づかせ、実際に作品を作ってもらう。	
	第15回	伝承遊び 子どもの伝承遊びの現状と意義の説明と遊び方を紹介し、実際におもちゃで遊んでもらう。又、手作りおもちゃを作ってもらう。	
	第16回	定期試験 講義で学んだ基本的な生活習慣や折り紙の魅力、伝承遊び等について振り返り、定期試験を受けてもらう。	
授業の概要	子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。社会人としてのマナー・保育者としての技能・子どもの生活技能などについて理論や実技等事例を通して学んでいく。		
予習	講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。		
復習	講義の中で話した内容や実践を復習し、理解をさらに深めること。		
テキスト	谷田貝公昭 監修『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版		
参考書	内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館		

	厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 子どもとマスターする49の生活技術、その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	<p>期末試験および小テスト、授業中に出すレポート課題、受講態度、演習、受講者の発表による総合評価 総合評価（成績）＝期末試験（40％）＋小テスト・課題（30％）＋受講態度（15％）＋演習（10％）＋受講の発表（5％）</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	課題の提出については、様式と期限を守ること。
オフィスアワー	授業終了後、教室等で質問を受付ます。
課題に対するフィードバック方法	レポートのフィードバックは最終授業時に行う。

講義科目名称：飼育栽培

授業コード：

英文科目名称：Feeding and Growing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
照屋 建太			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 講義では、飼育や栽培を通して、自然と親しみ、生き物の「命」の大切さについて実体験しながら学ぶ。また、保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 多くの保育現場で飼育や栽培が行われている。乳幼児にその影響がどのようにあるのか、そして、なぜ飼育や栽培を行う必要があるかについて実際に活動を行うことで理解することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、飼育栽培の意義について、グループ分け飼育や栽培活動がなぜ保育に必要か講義し、実際に飼育や栽培するグループに分かれ活動内容を考える。</p> <p>第2回 基礎学習①（植物の分類と特徴） 植物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。</p> <p>第3回 飼育栽培実習①（生き物を世話するための準備） 生き物の世話をするために必要な道具を準備し、環境を整える。</p> <p>第4回 飼育栽培実習②（生き物の世話における注意点） グループで選択した飼育動物や栽培植物の飼育場の注意点をしっかり理解する。その後、世話をを行う。</p> <p>第5回 基礎学習②（動物の分類と特徴） 動物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。</p> <p>第6回 飼育栽培実習③（生き物の環境維持） グループで世話をしている生き物の環境管理をしっかり継続する。</p> <p>第7回 飼育栽培実習④（生き物の観察） グループで世話をしている生き物の変化に気付き、環境維持に努める方法を理解し、実践する。</p> <p>第8回 基礎学習③（飼育や栽培における土の影響） 生き物への土壌の影響を学び、理解する。</p> <p>第9回 飼育栽培実習⑤（生き物の観察と病気） 生き物の病気や害虫の種類、そしてその対処方法について学び、実践する。</p> <p>第10回 飼育栽培実習⑥（生き物の命の大切さ） 生き物を育てる上で、命の大切さ、自然の尊さについて考える。</p> <p>第11回 基礎学習④（飼育や栽培における天気の影響） 生き物への天気の影響を学び、理解する。</p> <p>第12回 レポート作成①（レポートの書き方） グループ発表に向けてのレポート作成を行う。</p> <p>第13回 レポート作成②（レポートとパワーポイント作成の要点） グループ発表に向けてのレポート作成およびパワーポイントの作成の要点を学ぶ。</p> <p>第14回 パワーポイントの作成とレポートの作成 グループ発表に向けてのレポート作成を行い、提出する。また、パワーポイントの作成を行う</p> <p>第15回 グループ発表 各グループの飼育および栽培の結果について、レポートとともにパワーポイントを使用し発表する。</p>
授業の概要	<p>“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行い、人、社会、自然及び自分自身の生活についても考える。</p>
予習	<p>グループで飼育や栽培する生き物について事前に調べる。不明な点については、講義内に質問する。</p>
復習	<p>生き物の飼育や栽培をしっかり行う。その後、観察ファイルに記録する。活動について不明な点については、次回の講義にて質問する。</p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 必要に応じてプリントを配る。</p>
参考書	<p>その他、必要に応じて紹介する。</p>
評価方法・評価基準	<p>課題（20%）、発表（20%）、飼育に対する責任（20%）、受講態度（30%）、小テスト（10%）</p>

	<p>【D P1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義には積極的に参加し、レポートは参考文献を利用してまとめること。提出物の提出期限をしっかりと守ること。レポート発表は、パワーポイントを用いて行い、質問に対しても的確に答えること。生き物の世話をしっかりと行うこと。欠席した場合は、講義計画に関するテーマを自ら設定し、1200字（A4用紙）のレポートを提出すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 3限目 照屋研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>提出されたレポートは、講義最終日に各グループまとめて返却する。</p>

講義科目名称：音楽Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：MusicⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子・古謝麻耶子・仲松あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、課題曲の終了を目指す。</p> <p>【到達目標】 保育現場で音楽の能力が発揮できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明及びピアノ奏法のウォーミングアップ</p> <p>第2回 『大学ピアノ教本』① No.1～37はグルーブレッスンで進める。 第2回はNo.1～4</p> <p>第3回 『大学ピアノ教本』② No.5. 9. 11、及びハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（I、V）</p> <p>第4回 『大学ピアノ教本』③ No.13. 17. 21、及び属7度の和音（V7）</p> <p>第5回 『大学ピアノ教本』④ No.24. 25、及び4度の和音（IV）</p> <p>第6回 『大学ピアノ教本』⑤ No.27. 30. 32、及びヘ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5、属7度の和音（I、IV、V、V7）</p> <p>第7回 『大学ピアノ教本』⑥ No.33. 37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名</p> <p>第8回 『大学ピアノ教本』⑦ No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ヘ・ト・ニ）、及び和音（I・IV・V・V7）のまとめ</p> <p>第9回 『大学ピアノ教本』⑧、『幼児曲』① 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン。『幼児曲』とんぼのめがね</p> <p>第10回 『大学ピアノ教本』⑨、『マーチ集』① 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』ビーマーチ</p> <p>第11回 『大学ピアノ教本』⑩、『幼児曲』② 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『幼児曲』思い出のアルバム</p> <p>第12回 『大学ピアノ教本』⑪、『マーチ集』② 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』かけあしマーチ</p> <p>第13回 『大学ピアノ教本』⑫、『マーチ集』③ 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』手をたたきましょう （個人により曲の進捗が異なる）</p> <p>第14回 『讚美歌』、『任意の曲』 『讚美歌』だれがつくったの、『任意の曲』</p> <p>第15回 『大学ピアノ教本』、『幼児曲』、『マーチ』、『讚美歌』、『任意の曲』のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法と楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と連動して、歌唱とピアノ伴奏法の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、『ピアノ教則本』では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な幼児曲やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。</p> <p>1. 課題 (1) 楽典 ①音域 ②音程 ③音階 ④調と調号 ⑤和音 (2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.65程度 必修課題曲 No.1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、51、53、56、60、63、65、他任意の曲 ②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム） ③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましょう・ビーマーチ） ④讚美歌 必修課題曲（だれがつくったの） ⑤任意の曲</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を練習して次回の授業に臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社 ・ 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。 ※上記①～④を総合的に勘案して評価。 演習30% 定期試験20% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	<p>毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。 毎時間与えられた課題曲を事前レッスン（自己学習）して授業に臨むこと。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。</p>
オフィスアワー	<p>大山：授業終了後に質問を受け付けます。 糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。 神谷：授業終了後に質問を受け付けます。 古謝：授業終了後に質問を受け付けます。 仲松：毎週金曜日 4 限目 仲松研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子・古謝麻耶子・仲松あかり			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 音楽Ⅰで習得した学習成果を踏まえ、保育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。</p> <p>【到達目標】 保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く修得できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明（個別レッスンを中心に行い、習熟度によって進度が異なる）</p> <p>第2回 『大学ピアノ教本』① No.66～94（進度による課題曲の進め方）</p> <p>第3回 『大学ピアノ教本』②、『幼児曲』① 『大学ピアノ教本』No.67、『幼児曲』おはようのうた（幼児曲は順不同・達成度別の進度）</p> <p>第4回 『大学ピアノ教本』③、『幼児曲』② 『大学ピアノ教本』No.68、『幼児曲』おかえりのうた</p> <p>第5回 『大学ピアノ教本』④、『幼児曲』③ 『大学ピアノ教本』No.70、『幼児曲』たんじょう日</p> <p>第6回 『大学ピアノ教本』⑤、『幼児曲』④ 『大学ピアノ教本』No.71、『幼児曲』たなばたさま</p> <p>第7回 『大学ピアノ教本』⑥、『幼児曲』⑤ 『大学ピアノ教本』No.74、『幼児曲』はをみがきましよう</p> <p>第8回 『大学ピアノ教本』⑦、『マーチ集』① 『大学ピアノ教本』No.75、『マーチ集』おお牧場はみどり（マーチは順不同・達成度別の進度）</p> <p>第9回 『大学ピアノ教本』⑧、『マーチ集』② 『大学ピアノ教本』No.79、『マーチ集』ブルーセスマーチ</p> <p>第10回 『大学ピアノ教本』⑨、『讃美歌』 『大学ピアノ教本』No.81、『讃美歌』お星がひかる</p> <p>第11回 『大学ピアノ教本』⑩、『幼児曲』⑥、『任意の曲』 『大学ピアノ教本』No.93、『幼児曲』かたつむり、『任意の曲』</p> <p>第12回 『大学ピアノ教本』⑪、『幼児曲』、『マーチ集』 『大学ピアノ教本』No.94、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進度）</p> <p>第13回 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進度）</p> <p>第14回 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進度）</p> <p>第15回 『大学ピアノ教本』、『幼児曲』、『マーチ集』、『任意の曲』及び全体のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲等を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力やピアノ奏法の技術がさらに高められるようにする。幼児曲、マーチ曲の学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く修得出来るようにする。</p> <p>授業形態は、習熟度に応じ個別指導を中心に行う。予習型（自己学習）とする。</p> <p>1. 課題 (1) 楽典 ①移調譜 ②移調奏 ③和音 ④音階 ⑤調と調号 ⑥その他 (2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.66～94のうち11曲程度 No.66、67、68、70、71、74、75、79、81、93、94、他 任意 ②幼児曲 必修課題曲（おはようのうた・おかえりのうた・たんじょう日・たなばたさま・はをみがきましよう） ③マーチ曲 必修課題曲（おお牧場はみどり・ブルーセスマーチ） ④讃美歌 必修課題曲（お星がひかる） ⑤任意曲</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を練習して次の授業に臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。
テキスト	・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・ 一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜

	出版社 ・『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料
参考書	特になし
評価方法・評価基準	①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。 ※上記①～④を総合的に勘案して評価。 演習30% 定期試験20% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10% 【D P 1～4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。 毎時間与えられた課題曲を事前レッスン（自己学習）して授業に臨むこと。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。
オフィスアワー	大山：授業終了後に質問を受け付けます。 糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。 神谷：授業終了後に質問を受け付けます。 古謝：授業終了後に質問を受け付けます。 仲松：毎週火曜日 4 限目 仲松研究室
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本邦華・荻谷洋介			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 図画工作 I では身近な自然や物の色や形、感触、匂い、音に親しむ経験をするのが大きな目標となる。日用品から食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルに加え、自然素材に実際に触れ、扱うことによって、身近な素材を体験・経験し、素材の特性に対し理解を深める。さらに、それらを幼児教育の場で活かせるよう活動案を提案する。</p> <p>【到達目標】 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な、造形表現活動に関する知識と技術を習得する。演習を通し表現活動に係る教材の活用及び作成について学び、保育の環境構成について考え、具体的展開のための技術を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明—画像や映像資料を使用し、図画工作 I の目的と内容について説明を行う。 画像や映像資料を使用し、造形活動における子どもの表現について確認する。また、画用紙と鉛筆やクレヨンなど手軽な描画材を用いて自由に描くことを体験し、描画材や支持体の違いによって得られる体験の違いについて考えてもらう。</p> <p>第2回 表現の発達段階にそった造形あそびについて 幼児の造形表現における発達段階について再確認し、発達段階に合わせた描画材や支持体の用い方について学生に意見を自由に述べてもらう。1～2歳児、3～4歳児、5～6歳児で描画材の使い方がどう変わってくるのか、実際に体験しながら確認し、発達段階に合った環境整備、導入・展開の仕方など、現場での例を示しながら違いについて理解する。</p> <p>第3回 紙を使用した表現活動—素材を知る 紙を使用した表現活動を考える。紙の加工方法(切る、折る、曲げる、切り起こす、切り抜く、編む)を確認する。また、ぐしゃぐしゃに丸めてボリュームを出す、水に浸してパルプ状にし感覚遊びに用いるなど、一つの素材が多様に利用できることを学ぶ。</p> <p>第4回 紙を使用した表現活動—導入の工夫と展開について 新聞紙などの紙を用いて、年齢に合わせた導入の工夫と展開について考える。指の力が弱い子どもには少し切り込みを入れて渡すと、裂くコツをつかむことができる。裂いたものをまるめたり、広げたり、音を出したり、つなぎ合わせるなどの展開を楽しむ。4～5歳児は見立て活動も活発なので、新聞紙を用いて仮装をしたり、剣とマントを使ってごっこ遊びにつなげられる。一つの素材を展開していく技術を学ぶ。</p> <p>第5回 水や氷(物質変化による造形)による表現活動 色水を凍らせて色を楽しんだり、霧吹きを使って水を霧状にし、布に絵を描くことができる。またパステルで描いた絵を氷で濡らして偶然の色の混色を楽しむなど、いろいろな水の状態によって見える色の違いを体験し、感覚を取り入れた造形遊びに展開できることを学ぶ。</p> <p>第6回 風と色による表現活動 スズランテープなどを園庭に張り巡らし、風によってはためく音と、テープのたなびく色彩を楽しむ。張り巡らす身体活動が学生の軌跡を残し、音を生み、巨大な色と音の作品へと変化する。自然環境を取り入れながら表現活動を行う体験を通して、環境の取り入れ方について考える機会を与える。</p> <p>第7回 音と色による表現活動(1)—探した音・見つけた音を、色とカタチで表現する 学生になじみのない楽器などを使用し、目を閉じた状態で音を聴いてもらい、聞いた音をスケッチブックに色と形で表現してもらおう。聴覚を視覚へと変換する作業である。また学内を散歩し、聞こえた音を色と形で表現し、発表する機会を与える。感覚を変換し、表現することの楽しさを学ぶ。</p> <p>第8回 音と色による表現活動(2)—カタチと色から音を探る 第7回とは逆に、色と形から音を表現してみる。鍵盤楽器や、マラカスなどの打楽器などを用い、聴覚を視覚作品へと変換する作業を楽しむ。グループでまとめてみたり、それらを全体でつなげて一つの曲にするなどして、展開方法を学ぶ。</p> <p>第9回 動きと色による表現活動(1)—動きに合わせて生まれるカタチと色 液体の絵の具を大きい布かロール紙にドリッピングする。腕の動きによってラインやドットが生まれる。大きな動きをした時と、小さな動きをしたときの表現の差を体験し、身体の動きに合わせて生まれる形と色について学ぶ。</p> <p>第10回 動きと色による表現活動(2)—色から生まれる身体表現 色の明度・色相・彩度から受ける印象の違いについて解説し、提示した色によって感情や身体の動きで色を表現する。明度の高い色、低い色、彩度の高い色、低い色を身体全体で表現し、色の持つ性質を身体や感情で感じ取る。</p> <p>第11回 沖縄の植物から色をとる 自分が生まれ育った土地に、どのような植物があり、どのような色を持っているのかを知る。浸染では、昔から染め物に使われてきたフクギの葉を用い、鮮やかな黄色に染まることを体験する。たたき染めでは、改めて葉の形や色を観察するきっかけを持つことができる。造形的に楽しみながらも、科学的な目を育てることもつながることを体験を通して学ぶ。</p> <p>第12回 沖縄の土で遊ぶ・染める 沖縄の赤土を使って染める。赤土の水でじゃばじゃば染める作業は子どもたちの喜ぶ作業の一つであることを伝え、学生に追体験してもらおう。じゃばじゃば染を体験し、喜ぶ子どもだけではなく、汚れることに抵抗ある子どもへの声掛けや対応についても考えてみる。</p> <p>第13回 廃材を利用した造形活動—指導案立案 廃材を利用した造形活動をするにあたり、学生自身が廃材を収集するところから始める。子ども</p>

	<p>たちが興味を持つ廃材にはどのようなものがあるのか、それらはどのような道具で接着することが可能なのかなど、廃材の特性について考慮しながら、どのような活動ができるのかを提案し合い、指導案を立案する。</p> <p>第14回 廃材を利用した造形活動ー模擬授業 実際に立てた指導案に基づき、保育士役と子ども役にわかれて模擬授業を行う。時間が来たら保育士役と子ども役を入れ替える。どういう声掛けや導き方ができるのか、また廃材を用いるときにあると便利な道具などについても考えてみる。</p> <p>第15回 模擬授業の振り返りとまとめー表現と素材についてー 模擬授業を映像や画像を通して振り返り、気づいたことなどを発表し、意見交換を行う。廃材を利用する際に安全面などで気を付けることがあったか、あれば便利だと感じた道具や、面白い展開ができた素材などについて意見を述べる。また、子どもへの声掛けは適切だったかについて発表する。</p>
授業の概要	子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、造形作品の製作と鑑賞を通じて身につける。様々な素材・教材や用具の特性を理解し、保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とする。また終盤に具体的な図画工作の活動案の提案・模擬授業・ふり返りを行い、実践力を養う。
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
参考書	内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートープロジェクトアプローチの実践からー』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）、村田浩子『子どもと楽しむ染め時間!』（かもがわ出版, 2013)
評価方法・評価基準	<p>演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で制作した作品・発表 70% 指導案・模擬授業 10% 小レポート 10% 授業態度 10%</p> <p>【D P 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します
オフィスアワー	佐久本：毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室 荻谷：講義終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	演習に関しては、課題完成後の鑑賞の時間を用い、フィードバックを行う。 指導案や小レポートなどの提出物に関しては、採点后学生のメールボックスへ返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 主にグループでの共同製作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みため」や「ごっこ」のイメージ的な側面への理解を深める。また、子どもの遊びを豊かにし、子どもたちの感性やイメージを刺激し、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開、および環境構成について考える。</p> <p>【到達目標】 ごっこ遊びや見立て遊びなど、身体表現、音楽表現、言語表現なども重なった総合的な「表現」に展開するために必要な、造形表現からのアプローチに関する知識や技術を習得することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明－図画工作Ⅱの目的と内容について－ 画像資料や映像資料を使い、図画工作Ⅱの内容と目的について解説を行う。また、簡単なグループ創作活動を行い、コミュニケーションと表現とのかかわりについて理解を深める。</p> <p>第2回 版による造形表現(1)－雑材の収集とその造形性：教材の意味と導入の工夫 反復模様を生成する楽しさや面白さなど、版についての基礎について学ぶ。また雑材を用い、普段目にしていない形と、版として現れる形との違いに対する新鮮な驚きを体験する。どういった素材が面白い形を生み出すのか、材料研究を行う。</p> <p>第3回 版による造形表現(2)－雑材の収集とその造形性－：広がりのある展開とは？ 前回行った材料研究をもとに、それぞれに切り抜いた厚紙を台紙に雑材組み合わせ、台紙に接着し、一つの版を製作する。</p> <p>第4回 「みため」による造形表現(3)－雑材の収集とその造形性－：振り返り それぞれの版を持ち寄り、ローラーや筆を使って版に絵の具を乗せ、一反の布に摺り上げ、一枚の大きな作品とする。表現が一つになり大きな画面となることで、作品に幅と深みができることを体験する。</p> <p>第5回 「ごっこあそび」を通した造形表現(1)：教材の意味 4～5歳児からさかんになるごっこ遊びの事例を紹介し、何者かになりきることへの楽しみについて確認する。ごっこ遊びをいかした造形遊びについて例を提示し、学生のごっこ遊びに対する意見も聞いてみる。</p> <p>第6回 「ごっこあそび」を通した造形表現(2)：魅力的な導入について 「名前」「性格」「特徴」を書いたくじをひとつずつ引いてもらい、自分のキャラクターを設定する。想定外の奇抜な名前や特徴などの、様々な要素の組み合わせが作り手のイメージを刺激することを体験する。そして自分で引いたくじをもとにキャラクターをデザインする。</p> <p>第7回 「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：広がりのある展開とは？ 決定したキャラクターのお面を製作する。色や形、大きさについて、キャラクターの性格や特徴が伝わるようなお面を製作する。</p> <p>第8回 「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：振り返り 仕上がったお面を持ちながら、キャラクターになりきって自己紹介をする。また他の学生がインタビューを行い、お面の学生はキャラクターになりきって受け答えをする。振り返りを行い、キャラクターになりきったことで自分の中にどのような変化が起こったか話してもらい、学生間で意見を共有する。</p> <p>第9回 日常を「異化」する表現活動－光と影を楽しむ カラーセロハンを用いてガラス窓を装飾してもらおう。スタンドグラスのような光の色を楽しむ。また、無造作につなぎ合わせたカラーセロハンを校庭に持ち出し、太陽光を通して現れる色の影の美しさを体験する。</p> <p>第10回 コミュニケーションを通した造形活動(1)－つながる地図について 画像資料を基に、造形発達段階の視点から、子どもの絵地図の表現の変化について学ぶ。トポロジ的空間がユークリッド的空間へと徐々に変化する過程を確認し、4.5歳児を対象とした絵地図制作について考えてみる。次週から制作がスタートすることを踏まえ、段ボールや廃材などの素材を収集する。</p> <p>第11回 コミュニケーションを通した造形活動(1)－グループの世界をつくる 4～6人規模のグループを作成し、それぞれの夢の世界を作り上げる。コミュニケーションを通して、一つ世界観を作り上げることの楽しさを体験する。</p> <p>第12回 コミュニケーションを通した造形活動(2)－広がりのある製作にするには 各グループから打ち出されたテーマに沿って、地図を作り上げる。</p> <p>第13回 コミュニケーションを通した造形活動(3)－地図のつながり合わせと振り返り 隣のグループとコミュニケーションを取りながら、地図をつなげ世界を広げていく。最終的には一つの世界となる。完成後、各グループの世界についてそれぞれ発表してもらい、鑑賞する。世界観を共有し作り上げた感想等を述べてもらい、振り返りを行う。</p> <p>第14回 子どもたちの創造性を刺激する創作活動環境について考える 楽しかったり、嬉しかったり、驚いたりといった子どもの心に湧き上がる感情があって、初めて創作活動へと繋がるということを再確認する。またそのような体験は保育士や子どもどうしのかかわり、また自然環境とのかかわりから生まれるものであり、創作活動にとって体験を生み出す環境がいかに大切なのかについて理解を深める。</p> <p>第15回 子どもたちの創造性を刺激する働きかけについて考える－海外の現場の事例から レジャエミリアをはじめとする海外の幼児造形教育の現場について、映像や画像を用いて紹介する。学生がかつて経験したことのある創作活動との類似点や相違点について考え、意見を述べあう。</p>

授業の概要	図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」や「ごっこ遊び」を活発にするような共同製作について考え、提案し、取り組む。主にグループワークに取り組むことで、共同製作時の声掛けや環境設定における留意点についても考えてみる。
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。また廃材などの準備があるので、教材内容をよく考えながら事前に様々な材料を収集すること。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった製作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布
参考書	<p>福田泰雅・磯部錦司著 2015年 『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践から一』 小学館、小串里子著 『みんなのアートワークショップ～子どもの造形からアートへ～』 2011年 武蔵野美術大学出版、平田智久・小林紀子・砂上史子編 『保育内容「表現」』 2015年 ミネルヴァ書房、</p> <p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>
評価方法・評価基準	<p>演習でした作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で製作した作品・発表 60% 小レポート 30% 授業態度 10%</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満了し、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物がが必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方法	課題が終了するごとに、製作したグループワークの鑑賞を行う。その後、各学生に振り返りのレポートを提出してもらい、採点後に講義内、もしくはメールボックスにて返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋桂 真栄城勉			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。 ・子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得するとともに、模擬保育を通して実践力を養う。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動遊びを実践する際の環境設定、声かけの仕方等、具体的な展開方法を学び、模擬保育に活かすことが出来る。 2) 子どもの発達段階に合わせた運動遊びの種類や方法について学び、具体的な保育場面を想定した指導案の作成が出来る。 3) 自らの評価とまわりからのフィードバックを基に保育実践を振り返ることを通して、自身の取り組みを改善し続ける視点を持つことが出来る。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、学習計画と模擬保育の担当分担、幼児期の運動特性についての理解についてシラバスを確認しながら、授業の内容、評価方法等についてオリエンテーションを行った後、グループ分けと模擬保育の担当分担を行う。幼児期運動指針の内容を確認して、幼児期の運動特性について学ぶ。</p> <p>第2回 保育者に必要な力「体力」、集団行動、運動遊びの体験 子どもの体力や遊びの現状について知り、運動遊びの効果と、運動遊びの実践において保育者に求められている資質について学ぶ。その後、具体的な運動遊びについて実際に体験してみる。</p> <p>第3回 指導案作成の方法、展開の仕方、運動遊びの体験 具体的な保育場面を想定した指導案の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について、運動遊びの体験を通して学ぶ。</p> <p>第4回 鬼ごっこ・ルール遊び(1) 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。</p> <p>第5回 鬼ごっこ・ルール遊び(2) 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、様々な種類の鬼ごっこについて紹介と体験を行う。</p> <p>第6回 フォークダンス 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、フォークダンスのステップの種類について紹介する。</p> <p>第7回 体操遊び、力比べ遊び 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、体操遊びと力比べ遊びのバリエーションについて紹介する。</p> <p>第8回 身近な素材で運動遊び ペットボトルや新聞、ビニール袋等の身近にある素材を使った運動遊びの模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、身近な素材を使った運動遊びの事例について体験しながら紹介を行う。</p> <p>第9回 からだの使い方(動作体験) 動作法の体験から、こころとからだの関係について学ぶ。具体的には、日常の活動の中で起こってくるこころの緊張とからだの緊張について理解を深め、からだの使い方を変えることで対処していく方法について紹介する。</p> <p>第10回 ストーリーゲーム 絵本等の物語の世界と運動を結びつけて行う運動遊びの模擬保育実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、子どもの想像力・表現力を活かした運動遊びの実践について紹介する。</p> <p>第11回 ボール遊び 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、新しい子ども向けのボール遊びの紹介を行う。</p> <p>第12回 かけっこ遊び、とびっこ遊び 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。かけっこ遊びととびっこ遊びのバリエーションについて紹介する。</p> <p>第13回 なわ遊び(大なわ、短なわ) 教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。なわ跳びだけではなく、なわを工夫して使うことによる遊びを紹介する。</p> <p>第14回 大型遊具遊び(1)(マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台) マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験を行う。それぞれの遊具を使った技についても紹介を行う。また、それぞれの遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について知る。</p>

	第15回 大型遊具遊び(2) (マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台) マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験とその指導法について学ぶ。安全な環境の設定、援助の方法の他、子どもへの声かけの仕方や、活動の評価について学ぶ。
授業の概要	1) 幼児期運動指針の内容を理解し、子どもの健全な発達のために運動遊びが果たす役割について学ぶ。 2) 指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、導上の留意点を学ぶ。
予習	授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。
復習	授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返る。
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省; 幼児期運動指針策定委員会) 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	授業への参加度 (30%)、課題発表 (50%)、レポート (20%)などを総合して行う。 【D P 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士 (保育) の学位を授与する。
履修上の注意	安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 服装は、運動の出来る服装で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	(仮) 島 袋 : 毎週**曜日 **限目 島袋研究室 (仮) 真栄城 : 授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	・ 模擬保育の实践については、評価して講義内でそのフィードバックを行う。 ・ 指導案とレポートは、評価して返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋 桂			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>1) 保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。</p> <p>2) 心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) マット、跳び箱、鉄棒の基礎課題研究について、課題を達成するための努力が出来るとともに、安全な補助が出来るようになる。</p> <p>2) 様々な運動遊びを通して、子どもの遊びに対する欲求を理解し、子どもとともにからだを動かして楽しめる保育者としての視点を持つことが出来る。</p> <p>3) 伝承遊びや伝統芸能の体験を通して、郷土の文化を理解し、子どもたちに郷土の良さを伝えることが出来る。</p> <p>4) 保育者としての表現力を磨き、身体表現による作品づくりを創作することが出来る。</p> <p>5) グループの活動において、仲間と協力・協働してそれぞれの活動に取り組むことが出来るようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、グループ編成、実習を通しての幼児の運動と環境についての振り返り シラバスを確認しながら、授業内容、授業計画、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。その後、グループの編成と担当分担を行う。その他、実習の振り返りを行う。</p> <p>第2回 課題研究①・あやとり遊び 基礎課題研究として、マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の課題の紹介と練習を行う。用具の安全な使用の仕方、準備・片付けについても学習する。その他、あやとり遊びの紹介をする。</p> <p>第3回 課題研究②・なわ遊び マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）のと練習を行う。練習を通して、安全な援助の仕方について学ぶ他、情報機器を活用した課題の分析方法とそのフィードバックの方法についても紹介する。その他、なわ遊びについての紹介も行う。</p> <p>第4回 課題研究③お手玉遊び・鉄棒、マット、跳び箱のテスト 基礎課題研究のマット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の試験を行う。また、それぞれの活動についてその評価の視点と方法について学ぶ。</p> <p>第5回 歩け歩け園外保育の企画と展開 担当者は園外保育（お散歩）について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。園外での活動が子どもの運動にとってどのような効果をもたらしているかについて学ぶ他、安全教育の視点についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>第6回 公園でミニ運動会の企画と展開 担当者は園外保育（公園）について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。公園にある遊具や自然を生かした運動遊びの展開方法について学ぶ他、環境保全の活動についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。</p> <p>第7回 わらべ歌で遊ぼう トランポリン（1） 様々な種類のわらべ歌遊びの体験を行う。一般的なわらべ歌遊びの他、沖縄のわらべ歌遊びについても体験し、郷土の文化とその背景を理解する。トランポリンの基本的な跳び方と安全管理について学習する。</p> <p>第8回 伝承遊びで遊ぼう トランポリン（2） 伝承遊びのビデオを視聴し、その後実際に伝承遊びの体験を行う。伝承遊びのルーツや魅力について理解し、現場で実践する力をつける。トランポリンでは、数種類の技を紹介し、挑戦してみる。</p> <p>第9回 身体表現で遊ぼう（1）・「幼児の身体表現（0歳から6歳まで）」（ビデオ鑑賞） 「幼児の身体表現」のビデオを視聴し、子どもの自由な身体表現を引き出す方法や声かけの仕方について学ぶ。最後にその内容についてレポートを作成する。</p> <p>第10回 身体表現で遊ぼう（2） 「表現力」について理解し、保育者に必要な表現力について学ぶ。具体的な身体表現遊びの体験を行いながら、子どもの表現力を引き出す方法を学ぶ。</p> <p>第11回 沖縄のリズムと動きで遊ぼう 外部講師を招き、琉球舞踊やカチャーシー、楽器の体験を行う。体験を通して、沖縄の文化について理解し、伝統芸能の魅力を子どもたちに伝える力をつける。</p> <p>第12回 作品づくり（1）と発表 テーマ（課題曲）に沿って、各グループで身体表現の創作を行う。グループでの協働の仕方や創作プロセスについて学ぶ。授業時間内に作品を完成させ、発表を行う。</p> <p>第13回 作品づくり（2）と発表 沖縄の曲に合わせて各グループで身体表現の創作を行う。沖縄の伝統芸能で用いられる楽器や道具も使いながら、作品を創作する授業時間内に作品を完成させ、発表を行う。</p> <p>第14回 作品づくり（3-1）、創作 各グループで身体表現による創作の企画・演出を練り、その練習を行う。作品は15分以内とし、翌週（15回）に発表を行う。</p> <p>第15回 作品づくり（3-2）と発表・まとめ 各グループで最終作品の発表を行う。それぞれの作品発表に対して評価し、フィードバックを行</p>

	う。最後に講義のまとめを行う。
授業の概要	1) 大型移動遊具の基礎技能の習得や、環境設定、安全な補助法について学ぶとともに、それぞれの課題について評価方法を学ぶ。 2) 仲間と協力しながら、戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する方法を学ぶ。 3) いろいろな動きの体験、歌やリズムにのって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。
予習	授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。
復習	授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返る。
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省：幼児期運動指針策定委員会） 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	授業態度50% 受講者の発表30% 小テスト・授業内レポート20% 【DP 1～4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 .. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 運動出来る服装で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 島袋研究室
課題に対するフィードバック方法	・テストやレポート等は、評価した後、各自に返却する。